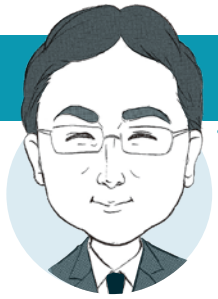

こんにちは
町長です

関係人口について考える

去る4月23日、小鹿野町役場で未来をつくるSDGsマガジン「ソトコト」編集長の指出一正氏の講演があり拝聴いたしました。指出氏は現在一般社団法人日本関係人口協会代表理事を務めたり、そのほか国、県、市町村の各種委員や講師などを務め、全国津々浦々を巡っていらっしゃいます。

指出氏が提唱した「関係人口」という概念は、現在国においても政策化されて最近では「ふるさと住民登録制度」も事業化されました。指出氏が著書「ぼくらは地方で幸せを見つける」（2016年発刊）で関係人口を定義し、定住人口（その地域に住んでいる人）、交流人口（地域外から旅行や短期滞在で訪れる人）に当てはまらない新しい人口とし、言葉のとおり「地域に関わってくれる人口」のことで、自分のお気に入りの地域に週末ごとに通ってくれたり、頻繁に訪れなくても何らかの形でその地域づくりを応援してくれるような人たちを指すとしています。現在は国全体が人口減少局面に入る中で、特に小鹿野町のような中山間地域の過疎地域では移住者を増やし定住人口を増加させることは至難の業であり、定住人口だけで町を維持するという考え方を見直す時代になっていると思います。

指出氏は全国を回る中で、ローカル志向の若者が増えて来ており、彼らは地方には本当の意味で豊かな暮らしがあると感じており、誰かの価値観ではなく、自分の物差しで地域の宝物を発見できることが強みであること、地方を盛り上げたい、地方に貢献したいと居場所を探している若者は都会にはたくさんいることも指摘され、これからは地方が率先して人を探す時代になったとお話しされました。

このように、今は地方に目が向いている中で、関係人口のひとつの形態として注目されているのが二拠点生活（二地域居住）という暮らし方です。平日は都心で勤務して生活し、週末には自然豊かな地方で過ごしたり、又は基本的には地方に居住してリモートワークなどで働き、月に何日かは都心の本社に出社して勤務するという暮らし方です。二拠点生活は、移住より気軽に始めることができ、東京など地震災害等のおそれの高い地域と比較して地方は安心安全に生活できるメリットがあります。

小鹿野町は首都圏に所在し、都心へは日帰りで安い鉄道運賃でアクセス出来、自然も豊かで比較的地震等の自然災害も少ない町であり、また、住まいとして利用可能な空き家も多いことから、二拠点生活に選ばれるポテンシャルの高い町であると思います。町では二拠点生活や移住を検討している方のために「お試し住宅」を提供して町での生活体験が出来るような体制も整えています。また、「ちちぶ空き家バンク」事業を活用して空き家の登録にも力を入れています。今後、町では二拠点生活をされる方が、地域の方とのコミュニケーションが円滑に行くような橋渡しもして参りたいと存じます。いずれにしても、二拠点生活者や地元町民の両者にとってお互いにメリットのあることが大切であり、関係人口が町が元気になる礎になってくれることを期待しています。

小鹿野町長　森 真太郎